

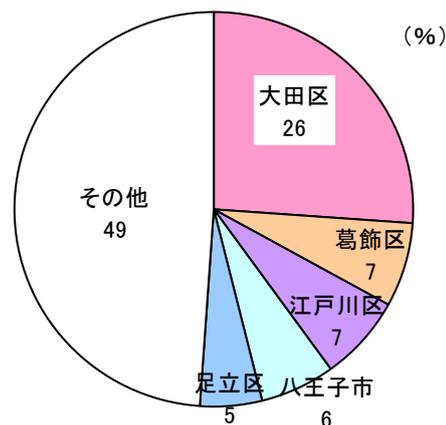
### (3) 機械・金属製品

産業用の機械や部品など機械・金属製品の生産では、大規模な工場とともに関連する中小企業も重要な役割を果たしている。そこで、特に製品の製造過程における代表的な中小企業の集積地からの関連産業間における輸送の流れについて示す。

#### ◆ 機械・金属製品の流れの概要

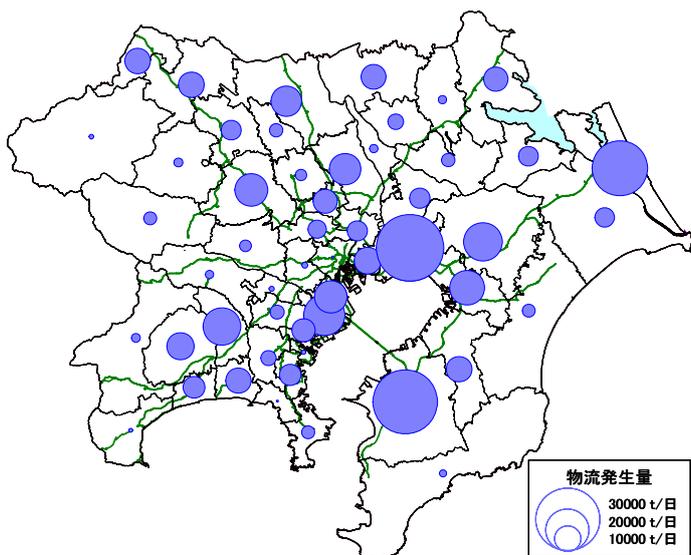
機械・金属製品の出荷は、都内では大田区などで多く、関連する中小の工場が集積している。物流発生量においても千葉・市川、大田、川崎・横浜など、湾岸部で大きくなっている。

大田区を含む城南地域からの輸送方向を見ると、千葉、川崎・横浜などへの輸送が多く、湾岸部の関連工場間で大量の輸送が行われることが多い。千葉方面への輸送においては、国道 357 号や首都高速湾岸線、東京港臨海道路などの経路で、川崎・横浜方面への輸送においては、環状 7 号線、環状 8 号線、産業道路、国道 15 号などの経路で輸送されることが多い。



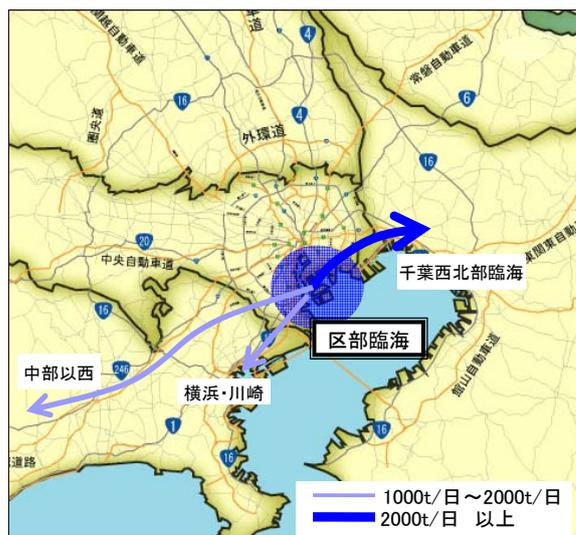
産業中分類別の製造品出荷額等から金属製品と一般機械を合わせて区市町村別に集計  
資料 東京都総務局「東京の工業」(平成15年)

図 機械・金属製品の都内での出荷額構成比



工場からの施設間流動ベースの発生量を図化  
資料 東京都市圏交通計画協議会「第4回東京都市圏物資流動調査」(平成15年度)より東京都で集計・加工

図 機械・金属製品の地域別物流発生量



金属工業品及び一般機器の東京区部臨海からの純流動 OD。施設種類は全施設計  
資料 東京都市圏交通計画協議会「第4回東京都市圏物資流動調査」(平成15年度)より作成

図 臨海部からの機械・金属製品の輸送先

## ◆ 機械・金属製品の流れにおける主な問題点

港湾エリアを経由して輸送されることが多いため、港湾エリアにおける道路網に関する問題点が多く挙げられた。

### ・港湾エリアの道路混雑

港湾エリアの一般道路を経由して千葉方面へ輸送する際に、青海地区から国道 357 号を経由することが多いが、輸送経路が限られていることから、渋滞などが起こりやすい。また、国道 357 号や首都高速湾岸線の混雑も激しいため、輸送が非効率になっている。

### ・港湾エリアと内陸部の接続部を中心としたボトルネック

環状 7 号線大井地区周辺や産業道路などで、総重量 20t 超の大型貨物車が自由走行できない箇所があり、港湾エリアから川崎方面への効率的な輸送ができない。また、現在整備中の東京港臨海道路Ⅱ期の完成により、千葉方面への輸送の利便性が向上する一方で、国道 357 号に接続する新木場周辺での交通の増加が見込まれる。



図 機械・金属製品の流れにおける問題点